

# 漁海況旬報

## ちば

平成28年1月28日発行  
千葉県水産総合研究センター  
千葉県水産情報通信センター  
千葉県農林水産技術会議

### トラフグの標識放流について

千葉県では、資源・漁獲の維持増大を目的に、マダイ、ヒラメ、アワビなどの種苗を生産、放流しています。今年度から新たにトラフグについて、県内で放流する人工種苗の移動や分散など、基礎的な知見を得るために標識放流試験を始めましたので、その概要を報告します。

#### 1. トラフグの基本情報

トラフグは日本各地で漁獲されます。千葉県沿岸で漁獲されるトラフグは、伊勢湾口の産卵場で繁殖する伊勢・三河湾系群に由来しているものと考えられています。

産卵期は4～5月と考えられ、仔魚は砂浜海岸の砕波帯に着底し、成長に伴い生息域を広げます。1歳で全長20cmを超え、2歳で40cm、3歳で48cmに達する比較的成長の速い魚です。食性は動物性雑食で甲殻類を好んで食べます。

伊勢・三河湾系群の資源量は、卓越年級群の影響により大きな変動を示し、平成26年漁期における資源水準は低位、動向は減少と判断されています。資源を安定させるため、三重、愛知、静岡、神奈川の各県で種苗放流が行われています。

#### 2. 千葉県における漁業の実態

千葉県沿岸全域で釣り、延縄、底曳網、定置網などで漁獲され、平成26年には20漁協で約3.3t、10,500千円の水揚げがありました（図1）。

比較的漁獲量の多い内房地区では4～5月、10～12月に釣り、刺網、底曳網で、夷隅地区では11月～12月に延縄で多く漁獲されます（図2）。

平成26年の平均単価は3,200円/kg程で、大型個体（3kg）では6,500円/kg前後になります。

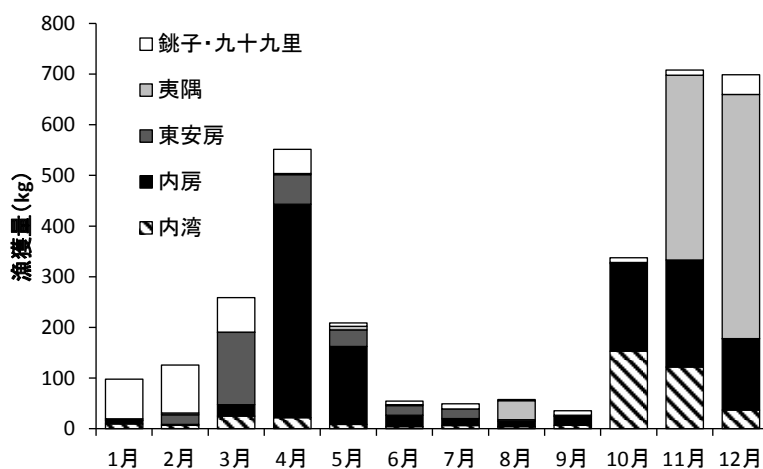
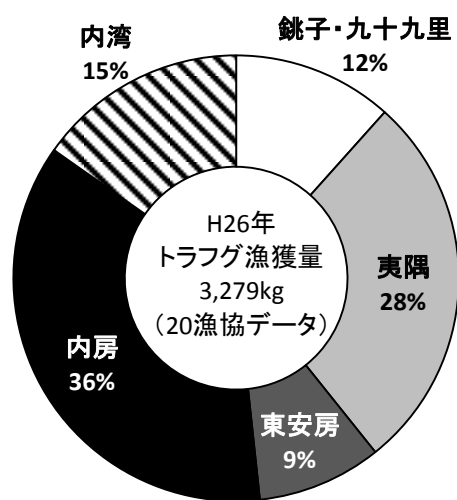


図1 県内トラフグ漁獲量の地区別割合 (平成26年千葉県調べ)

図2 県内トラフグ地区別月別漁獲量 (平成26年千葉県調べ)

### 3. 標識放流試験の概要

東京湾の内房及び内湾海域で、アンカータグによる標識放流を実施し、標識魚の再捕情報を収集しています。

全長39mmの人工種苗を勝浦生産開発室で全長87mmまで中間育成し、青色のアンカータグを装着しました(図3)。放流場所は100mm以下の幼稚魚が生息していると考えられる砂浜海岸の浅海域を選び、平成27年8月20日に南房総市富浦地先(内房放流群)及び木更津市盤洲干潟(内湾放流群)で約5,000尾ずつ放流しました(図4-a)。内房放流群はCB1、内湾放流群はCB2を刻印していますので、見つけた方は千葉県水産総合研究センター資源研究室(TEL:0470-43-1134)までご連絡ください。

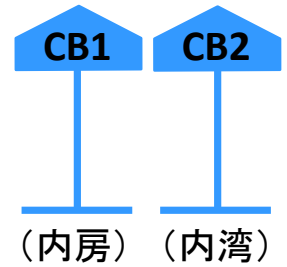


図3 アンカータグ

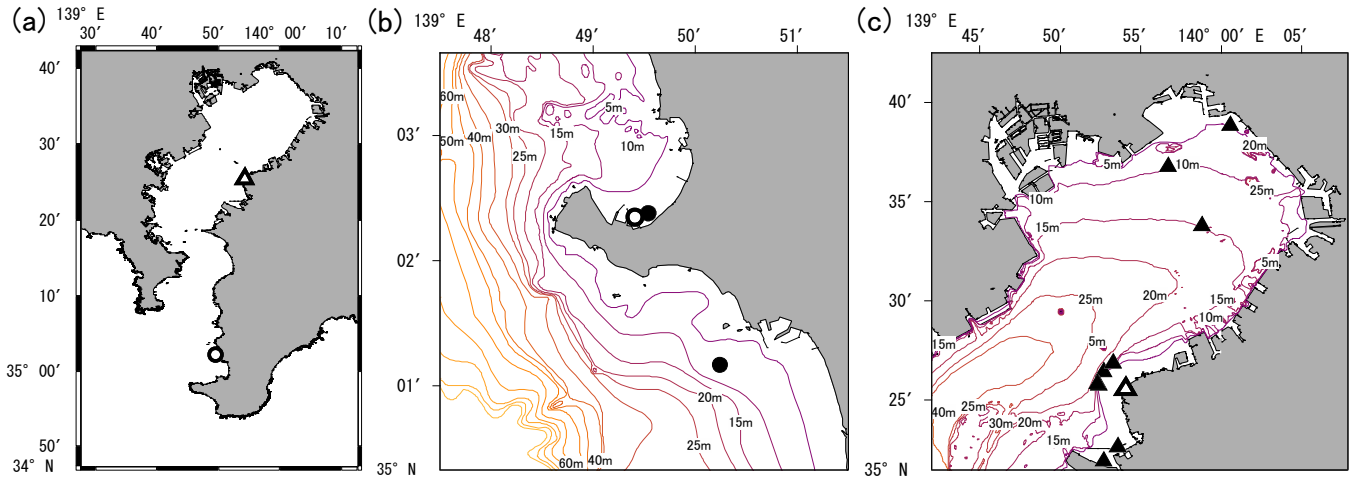


図4 放流場所(○内房, △内湾)・再捕場所(●内房放流群, ▲内湾放流群)

平成28年1月25日現在、内房放流群で34尾、内湾放流群で12尾の再捕報告がありました。

内房放流群は、放流後2か月(10月20日)まで放流海域付近の浅瀬において地曳網で継続的に再捕されました。また、10月19日に放流海域南側の館山湾においてまき網で再捕されました。(図4-b)

内湾放流群は、12月に船橋及び習志野地先、1月に木更津地先において底曳網により再捕されました(図4-c)。

再捕時の全長は、放流後31日目の9月20日は平均全長118mm、117日目の12月15日は204mm(図5)、156日目の1月23日は181mmであり、放流後1日当たり0.6mmで増加していました(図6)。

標識放流は平成28年度も実施し、平成31年まで追跡調査を行う計画です。

再捕情報は、トラフグの栽培漁業を効果的なものとするために必要な情報となります。引き続き情報収集へのご協力をよろしくお願ひします。(資源研究室 中川雄太)

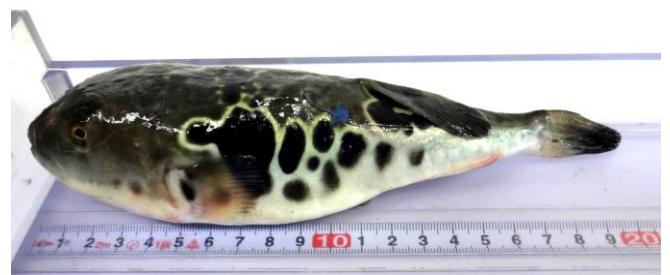


図5 平成27年12月15日に習志野地先で底曳網により再捕されたトラフグ(全長204mm)

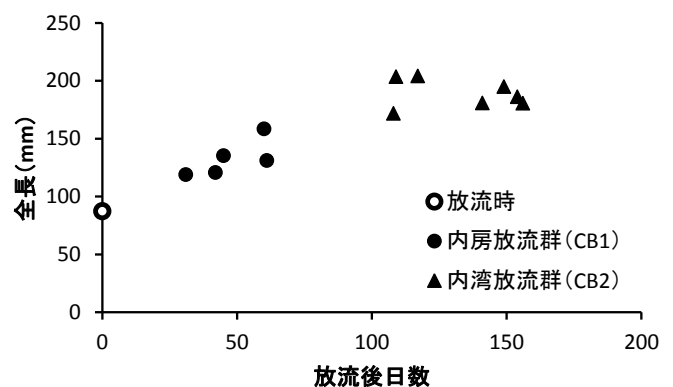


図6 放流後の再捕時の全長の推移